

2007 年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金の概要報告

厚岸湖・湾の流入河川流域の土壤動物の研究 II.

特に、アッケシソウ群落周辺のトビムシ・ササラダニ相について

須摩靖彦・渡部友子・大西 純 (釧路昆虫同好会)

厚岸湖・湾は養殖カキ等道内有数の漁業地であります。同湖は別寒辺牛川が注ぐ汽水湖で、ここでは水禽類が多数飛来し同湖から大量の餌を摂り、大量の糞を排泄していることが知られています。

2004・2005 年、須摩・渡部・大西（大西は 2005 年）はこの有機栄養分の移動と土壤動物との関係について、厚岸町のアオサギの営巣地・非営巣地におけるトビムシ・ササラダニ類について調査し、アオサギの排泄物がこれら土壤動物類に影響を与えていることを報告しました。

同調査によって、これらの動物による局地的かく乱の影響がわかりましたが、湖畔を取り巻く豊富な自然林の土壤動物の生息状況を調査することも必要でした。そこで 2006 年度は厚岸湖畔金田崎アッケシソウ群落周辺の 4 つの植生（塩湿地、低湿地、広葉樹及び針葉樹）下のトビムシ・ササラダニ類について種類・個体数等を調査しました。その結果、トビムシ相は針葉樹（29 種・4 万 6,733 個体/m²）、低湿地（22 種・3 万 333 個体/m²）、広葉樹（27 種・2 万 8,266 個体/m²）、塩湿地（2 種・1,100 個体/m²）の順でアッケシソウ群落の塩湿地が極端に少ないことが分かりました。全体の優占種はヤマトシリトゲトビムシ、ベソッカキトビムシ、ヨシイホソシロトビムシの順でした。それに対して、ササラダニ相は低湿地（40 種・3 万 3,958 個体/m²）、針葉樹（52 種・2 万 8,908 個体/m²）、広葉樹（46 種・1 万 6,525 個体/m²）、塩湿地（5 種・433 個体/m²）の順でやはり塩湿地が極端に少なかったことです。優占種はナガコソデダニ科の一種、ナミツブダニ、クワガタダニ、ハナビラオニダニの順でした。

今回(2007 年)の調査は異なる植生での違いに加え季節変化を定量調査方法でトビムシ・ササラダニ類を調べました。4 植生下で 10×10×5 (cm) の容器を地中に埋め込んで土壤サンプルを採取しました（調査時期は春（6 月）、夏（8 月）秋（10 月）の 3 回、それぞれ植生で 3 個の土壤サンプル、合計 36 個の土壤サンプルを採取）。各土壤サンプルはツルグレン装置に掛け抽出し、顕微鏡で種を同定し個体数を算定しました。この報告書では、トビムシ相については 2 年間のアッケシソウ群落の塩湿地を、ササラダニ相については全調査地で季節調査結果についてふれます。

トビムシ類: 2 年間のアッケシソウ群落の塩湿地から 10 種のトビムシが 363 個体得られました。イソトビムシ属の一種が全体の 58.4%、ヒメオドリコトビムシ属の一種が 29.5%であり、この 2 種が真の海浜性トビムシです。オドリコトビムシ属の一種（4.4%）とオオシロトビ亜属の一種（2.8%）が準海浜性トビムシでしょう。その他 6 種は周辺から塩湿地にきたと考えられます。

ササラダニ類: 今回の調査から 48 科 79 種 7,669 個体が得られました。植生による違いは、種数・個体数ともに前回と同じ傾向を示しました。個体数の季節的変動は、塩湿地と低湿地が春秋に山になり夏は減少し谷の「二山一谷」、広葉樹と針葉樹が夏から秋へと増加傾向にありました。優占種は 3 位まで前回と同じで、4 位にヒワダニモドキが入りました。好塩湿地性として、エゾニオウダニ、サカモリコイタダニ、オトヒメダニ科の一種、ウミノロダニ科の一種の 4 種でした。